**高い放射線量、む　４号機　米軍にヘリ散水へ**

2011年3月16日3時2分

東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原発（福島県町、町）は１５日、放射線量が異常に高くなり、作業がきわめて困難な状況に なっている。爆発事故が起きた４号機では人間がに入れず、東電はヘリコプターによる上空からの散水を米軍にする。２号機も爆発が起きて が。高濃度の放射性が外部にれ、は２０キロから３０キロの住民にを指示した。

　東京電力福島事務所によると、１５日に爆発した４号機で、東電の作業員が調べたところ、４号機のの北西側に８メートル四方の穴が２カ所開いていた。

　に入り、４階で放射線を測ったら、１時間あたり最大４００ミリシーベルトという高いがされた。５００ミリシーベルトを浴びると、のリンパの減少などが起きる。

　５階には使用みをしたプールがあるが、線量が高すぎて先に進めず、プールの状態は確認できていない。

　昼の時点で建屋に開いた穴から、プールに水が満たされているのは確認したが、その後は使用みがどうなったか確認できていないという。午前９時 ３８分ごろには、４階北西部で出火も確認。自然したが、使用みがしていれば、以外にるものがなく、放射性物質が外部 に漏れ出すおそれがある。

　４号機は、構内だけでなく、周辺でも毎時１００ミリシーベルトの放射線量がされており、の作業員でも１時間しかその場にいられないで作業ができない状態だ。

　ヘリコプターで上空から散水する方法があり、が検討しているが、もある。東電は１５日の会見で、「米軍にをする」と明らかにした。了解が得られれば１６日中にもしてもらう。



みは熱を持っており、通常はプールに水をさせて冷やしている。だが、定期検査で停止中だった４号機も、１～３号機同様、地震で外部 からの送電、非常用発電機が止まって電源を失い、十分に熱を冷やせていない。水のはできている５、６号機でも、海水による熱交換器の電源がないため温 度が少しずつしている。

　１～３号機では、海水をして原子炉内を冷やす作業が続いている。がからした可能性があるが、圧力は安定しており、がしているおそれは低いという。７３０人の作業員が順番に現場に行き、７０人で注入している。

　１５日には、政府と東電が一体で危機対応にあたる「福島原子力発電所事故対策統合本部」（本部長＝）を東京・の東電本店に設置。経済産業と東電社長を副本部長とし、氏をほぼさせる。

　は同日午前１１時過ぎからの記者会見で、福島第一原発４号機で火災が発生したことを明らかにし、「今後さらなる放射性物質のの危険が高まっている」と説明。同原発から２０キロへののなどを指示した。

　は１５日、福島第一原発の３０キロの上空を、高度にかかわらず飛行禁止にした。海上保安庁もをし、洋上で指示が出ている２０キロ以内に船が入らないようしている。

　仏原子力安全委員会のラコスト委員長は１５日、福島原発事故が国際原子力評価で、チェルノブイリ原発事故（レベル７）に次ぐ「レベル６」に相当する大事故との認識を明らかにした。ＡＦＰ通信が報じた。

